

- ◆企画名 ピア・コミュニティ春合宿  
 日程 2017年3月13日(月)～3月14日(火)  
 場所 関西大学 高岳館  
 参加者数 25名(ピア・サポータ13名、研修生6名、学生支援室TA3名、教職員3名)  
 目的

- ①ピア・コミュニティに関する知識の習得やコミュニティの現状把握を通し、よりよい企画運営を行う自信をつけることで、ピア・サポート活動に対するモチベーションを上げる機会にする。  
 ②他コミュニティのことをより深く知ることで、今後のコミュニティ間の円滑な交流を図る。

**内 容**

- (一日目)  
 ・開会挨拶、企画説明  
 ・アイスブレイク  
 ・本部企画ワーク「ピア・クエスチョン」  
 ・本部企画ワーク「TA、シニア・サポータ座談会」  
 ・懇親会  
 (二日目)  
 ・レクリエーション  
 ・本部企画ワーク「企画運営のためのプロセス」  
 ・アンケート記入、閉会挨拶

**効 果**

- ・「TA、シニア・サポータ座談会」を通して、コミュニティの現状や改善点を把握することができた。また「企画運営のためのプロセス」では、企画を実施する上で必要なことやふりかえり方法について理解することができた。  
 ・アイスブレイクやレクリエーションでは、他コミュニティの人と親睦を深めることができ、今後の活動を円滑に進めるためのよい機会となった。

**改 善 点**

- ・準備段階において情報共有があまりできていなかった。また、仕事の割り振りを行ったものの一部の人の負担が大きくなってしまった。  
 →担当者だけに任せきりにしないようにする必要がある。割り振られた仕事をしっかりと行い、進捗状況を会議などで確認する。  
 ・昨年より他コミュニティからの参加者は増えたが、充分とは言えなかった。  
 →参加者を増やせるような企画を実施する。また、他コミュニティが行っている企画へ積極的に参加し、交流を増やすことで今後の企画に参加してもらいやすくする。

**感 想**

今回企画した「TA、シニア・サポータ座談会」は、コミュニティの現状や問題点を把握するよい機会となった。ここで聞いた話を今後の活動に活かしていくことが重要であると考える。また、この他のワークにおいても他コミュニティの参加者とともにピアについてのことや企画について学ぶことで、今後のピア・サポート活動に対するモチベーションを向上させることができた。これらを全体的にみると、今回の合宿は非常に有意義なものだったと感じた。